

指定管理者制度導入施設 年度評価シート

評価年度

令和6年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立南障害者地域活動支援センター
指定管理者名	社会福祉法人かむ
指定期間	令和5年4月1日から令和10年3月31日（5年間）
施設設置条例	相模原市障害者地域活動支援センター条例
施設の設置目的	精神障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、相談支援を行い、創作的活動又は生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進を図るとともに、日常生活に必要な便宜の供与を行い、もって精神障害者の福祉の増進に寄与するため、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第5条第27項に規程する地域活動支援センターとして相模原市立南障害者地域活動支援センターを設置する。（条例第2条）
施設概要	所在地：相模原市南区南台4丁目12番54号（市営南台団地4号棟1階） 開館時間：火曜日、水曜日及び金曜日は午後1時から8時まで 土曜日、日曜日及び休日は午前10時から午後5時まで 休館日：月曜日及び木曜日、12月29日から翌年の1月3日まで 年間開所日数：255日 主な設備：フリースペース、キッチン、ダイニングルーム、相談室、静養室、多目的室、ボランティア室、浴室、洗濯コーナー、事務室、倉庫、駐車場、自転車置場
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
利用者数合計（人）	4,285	5,211	4,709	3,898			
利用料金合計（円）	25,750	30,400	107,610	101,445			
収入総額（円）	30,352,114	30,628,366	34,272,647	33,621,428			
支出総額（円）	26,571,220	32,241,868	34,133,654	30,346,807			

3 成果指標の達成度

評価（5段階）	評価理由・委員会意見
D	前年度に引き続きD評価となった。達成度についても、14.4ポイント減少している。生活支援事業、地域交流事業及び情報提供事業の充実や拡充を行い、来館者の増加を図るなど評価改善を推進し、達成度の上昇に努められたい。

指標1							
指標名（単位）	利用人数及び総合相談人数 単位：人						
指標式と指標の説明	年間延利用者数 ÷ 総合相談延べ人数 利用率の向上に向けた指標						
項目（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値（単位）			14,000	14,500	15,000	15,600	16,200
実績値（単位）	12,898	13,746	11,070	9,339			
達成度（％）			79.1%	64.4%	0.0%	0.0%	0.0%

4 事業の実施状況

評価(5評価)		評価理由・委員会意見	
A		基本相談支援、計画相談支援、地域交流事業など、地域活動支援センターⅠ型として適切に事業を実施していると評価できる。利用登録者数は、前年度と比べて36名増加し、延べ1,137名となっている。引き続き、市との適切な連携体制を確保しながら、利用者に適切な支援を行ってほしい。	
市が指定する事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
基本相談支援事業	通年	面接相談、電話相談、連携、個別支援会議、同行、訪問。 相談件数は合計2,960件（前年度3,308件）。そのうち、面接相談は343件（前年度737件）と半減している。電話相談は2,546件（前年度2,378件）であった。連携は18件、個別支援会議は1件となっている。また相談内容を多い順に並べると、不安の解消や情緒安定、家族関係や人間関係、社会参加や余暇活動、障害や病気の理解、健康や医療、福祉サービスの利用、就労、家計や経済、生活技術、保育や教育や権利擁護となっている。*家族相談は24件であった。	◎
計画相談支援事業	通年	【指定特定相談（計画相談）】 対象者73人（前年74人）。相談支援専門員による対応。相談件数の合計は2,481件（前年度3,053件）。そのうち、面接相談は207件（前年度329件）、電話相談は1,223件（前年度1,505件）、連携は720件（前年度908件）、訪問は184件（前年度153件）、同行は93件（前年度64件）、個別支援会議は22件（前年度20件）となっている。	◎
地域相談支援事業	通年	【指定一般相談（地域移行）】 対象者0人。 【指定一般相談（地域定着）】 対象者0人。	○
生活支援事業	通年	自立した日常生活及び社会生活を送るための援助の提供。 プログラムの実施と入浴及び洗濯に関する支援。 ・令和5年度の延べ来館者数3,898人（前年度4,709人）。 ・一日の平均来館者数15.4人/日（前年度18.5/日） ○プログラム（月に1回カレーの日） 12回実施、延べ参加者数37人 ○プログラム（作って食べようおいしいご飯） 12回実施、延べ参加者数29人 ○キッチン面談 申込みなし ○キッチン開放日 12回実施、延べ参加者数8人 ・入浴の延べ利用者数は223人（前年184人） ・洗濯の延べ利用者数は34人（前年度20人） 【その他プログラム】合計215回実施、延べ参加者数615人 ・外出企画 25回実施、延べ参加者数103人 ・集い 12回実施、延べ参加者数52人 ・生保交流会 12回実施、延べ参加者数38人 ・HealAth CLUB 11回実施、延べ参加者数33人 ・清掃ボランティア12回実施、延べ参加者数18人 ・他に、生活教室、グループセッション、メイクの時間、就労ミーティング、キャリアカウンセリング、編み物手芸、散歩、映画鑑賞、季節のイベント、家族支援、市民相談を実施。 *○○の世界は、今年度は未実施。	○

地域交流事業	通年	地域住民との交流を通じた障害者の社会参加の促進、市民の障害に対する理解の促進。 【FESTAみなみ風】10月27日 来場者数は195人（市民153人、利用者42人）。地域交流を目的として開催している。模擬店や演者などには毎年多数の事業所や団体の協力を得ており、地域住民の精神障害者理解に役立つものと自認している。 【団体連携、団体支援】 相模原市精神障害者家族会みどり会の賛助会員として毎月定例会に出席し、情報提供及び収集、相談に対応した。 【さがみハート展】 精神障害者が書いた詩を題材に、市民画家や学生が絵を描き、絵と詩をひとつの作品として市内各地で展示することで、精神障害者の社会参加促進、市民の精神障害者理解が深まるイベントである。当センターは、カミングと共に実行委員会事務局の役割を担い、作品募集、パネル作り等展示会準備、会場設営及び片づけ、巡回展の準備及び連携、協賛企業挨拶回り等を行った。 ・本展は1月10日～14日に開催。 【相模台福祉まつり】 地区社協理事として1名参加、利用者1名参加。	◎
情報提供事業	通年	市内の社会資源の紹介、機関紙の発行、ホームページ及びInstagram上での情報発信。 市内外の福祉事業所や訪問看護ステーション、当事者会関係団体、社会福祉協議会、精神保健福祉行政、求人、その他の情報を館内に常設。雑誌「こころの元気」と新聞（朝刊）を定期購読しフリースペースに常設。	○
ピアサポート事業	通年	精神障害者ピアサポートグループ「ピアカム」の活動支援 ・ピア面接相談（第2日曜日と第4土曜日） 担当ピアカムメンバー5名 24回実施、延べ相談件数21件 ・ピアカム話し合い 10回出席（毎月第1日曜日） ・WRAP出前講座（9月9日）、5名参加 ・ピアサポーター養成研修 4回開催 ・ピア相談員フォローアップ研修 1回開催、2名参加 仲間と共に活動する中で共感し意見を交わしながら、お互いが支えとなり、リカバリーを促進することに大きく役立っている。	○
その他の事業	通年	【就労に関する支援】 ・就労に関する相談は267件（前年度441件）。障害者職業センター、ハローワーク、就労移行支援事業所等と連携した。 ・キャリアカウンセラー相談会 隔月開催（延べ参加者数7人） 【地域との連携】 相模台地区社協の理事として、児童障害者部会に所属し、理事会や部会の他、催事に出席。自治会役員や民生委員、地域包括支援センター職員他と連携し活動している。 【関係機関との連携】 ・精神障害者地域生活支援ネットワークを開催。精神科医療機関、就労支援事業所、共同生活支援事業所、居宅介護事業所、相談支援機関が集まり、精神障害者の現状と課題を共有検討している。4回開催、延べ参加者数81名	○

企画提案事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
(なし)			

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
(なし)			

5 利用者の満足度

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
B	目標値に対する達成度が90%以上100%未満のため、B評価となった。多くの利用者には一定程度の満足感を抱いていただいていると言えるが、昨年度と比較すると実績値及び達成度ともに減少しているため、次年度以降は実績値を改善し、利用者満足度を高めてもらいたい。

利用者満足度調査	
調査手法/サンプル数	令和6年に1回以上の利用があった者に対するアンケート調査/対象者数292名、配布数254名、回収数107名
目標値の基準	「満足している」「おおむね満足している」と回答した人の割合の合計

項目 (単位)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和10年度
目標値 (%)	93.5	94.1	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績値 (%)	87.2	87.7	85.3	83.5			
達成度 (%)	93.3%	93.2%	94.8%	92.8%	0.0%	0.0%	0.0%

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容

6 施設の経営状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
S	指定管理施設を運営するに十分な経営規模、財務能力を有する。 資金流動性、自己資本比率は高水準で安定している。 収支についても営業利益率及び経常利益率はプラスとなっている。 以上のことから、団体本体の経営状況については、特段の課題はないと判断する。

施設の収支概要		※直近3年間について記載 (千円)		
項目		令和4年度	令和5年度	令和6年度
収入 (a)		30,628	34,273	33,621
指定管理料		26,925	31,730	31,730
利用料金収入		30	108	101
その他の収入		3,673	2,435	1,790
支出 (b)		32,242	34,134	30,347
人件費		24,548	28,157	24,474
本社管理経費		1,151	1,588	1,010
その他の支出		6,543	4,389	4,863
本体事業収支 【(a)-(b)】 (c)		-1,614	139	3,274
自主事業収入 (d)		0	0	0
自主事業支出 (e)		0	0	0
自主事業収支 【(d)-(e)】 (f)		0	0	0
全体収支 【(c)+(f)】		-1,614	139	3,274
備考				

団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。
---------	------------------------

7 管理業務の履行状況

検査方法	施設所管課職員による現地視察	
実施時期	令和6年8月13日、令和7年2月28日	
検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	有
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	○
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	○
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	○
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	○
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	×
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	×
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	○
その他取り組んでいること	

9 指定管理者の自己評価

令和6年度は、1年を通じて職員体制が安定せず余裕の無い状況であった。前年度から令和6年度初めにかけて常勤職員5名のうち2名が退職し、残った3名の常勤職員が許容量を超える業務を担うことになった。令和6年度は中途採用の職員を複数名雇用したが、精神障害者支援や相談支援の経験者を確保することは難しかったため、利用者に対して適時適切な支援を十分に提供することができない状況があった。更に、支援困難な利用者に時間や労力を費やされ、また暴言や暴力が原因となって複数の職員が退職するという事態になったことも、センターとしての支援の力を低下させることになった。また、退職した職員が数年来関わってきた複数の利用者が、センターに來所しなくなってしまったということも生じており、馴染の存在がなくなることによって精神障害当事者が孤立してしまうこともあり得ることが分かった。プログラムの運営については、新任の職員が懸命に学びながら行っている姿もあり、余裕がない中で職員全員が協力して業務をこなしていったというのが実際のところである。他機関との連携については、余裕がなく参加できなかった会議等もあったが、南地区のネットワーク会議は引き続き開催し、精神障害者の地域生活支援を担う関係機関のネットワークを更に広げるために継続していった。

令和6年度は、センターの管理運営の難しさを改めて実感した1年となった。開所から15年目にして職員体制及び相談支援体制の安定化が課題となった事態をふりかえり、センターにおける業務遂行のありかたについて、改めて職員間で共通認識を持つことが求められていると感じた。

地活Ⅰ型の役割を果たすためには、何よりも利用者のために、職員体制に余裕がなければならない。人数はもちろんであるが、対人援助職に必要なスキルをもって、精神障害者と向き合い、支援を実践していくことができる人材が求められている。精神障害者支援を担える人材の不足を強く感じる一年でもあった。

10 所管課意見

令和6年度は、前年度から引き続き過去の指定管理者としての経験を活かし、堅実に施設の管理運営を実施していた。

南区における精神障害者地域活動支援センターとして、相談支援事業、生活支援事業、地域交流事業などを実施しており、施設の役割を果たしていると評価する。

また、利用者対応の改善等により、業務全般の対応の質の向上が図られてきていると感じているので、今後も円滑な施設運営に取り組まれない。

11 運営委員会意見

多様なプログラムを行っており、取組は評価できる。

職員1人1人が対応スキルを向上し、利用者に応じた対応を行ってほしい。

職員の継続的な確保には課題があり、人材育成にも注力してほしい。また、職員が外部研修を受講できていないので、研修の受講体制を充実してほしい。

障害者地域活動支援センターとしての役割は大きいと考えるので、引き続き、適正な施設の運営に努めていただきたい。

